

総務建設経済常任委員会報告「町の小さな公園について考えよう」

7月3日 ラヂアンMR2 10:00~11:30

1、課題として取り上げた背景

町には17か所の都市公園と56か所の児童遊園地・子どもの広場があり、合計で73か所の公園がある。そのうち児童遊園地・子どもの広場については、多くの人が利用している公園もあれば、ほとんど利用されていない公園もある。また平成26年子ども・子育て支援新制度策定時に実施された乳幼児を持つ母親へのアンケートでは、73か所も公園があるにもかかわらず公園に対する不満や要望が一番多かった事で、公園の需用と供給のミスマッチも顕在化した。

今後、町が目指すべき公園の方向性を打ち出すべく、総務建設経済常任委員会としては公園の利用状況を把握し、公園の周辺環境が変化している中で有効に利活用されるためには、どのように改善、管理・運営していけばよいのか、調査・研究を進めるために広く意見を伺いたく今回のテーマとした。

2、まとめ

今回、実際に利用されている方の身近な公園について活発な意見交換ができた。今後もこのような意見交換会を行い二宮町の公園のあり方について合意形成し、町民満足を上げる公園施策につなげていく。

3、主なご意見

地域住民の管理維持への関与

- ・地域で関心がある人たちが公園管理委員会などをつくり地域に沿った公園にして欲しい。
- ・町に任せっぱなしではなく。ルールは子どもを含めみんなで考えるべきものではないか。公園ミーティングなどを開催して地域の方との交流をしながらお互いの理解につなげる。
- ・地域の人たち、ボランティアの人たちによって公園整備のお手伝いをしてもらいたい。

公園運営の改善

- ・子どもや大人など年代別に使用時間のすみわけができるとよい。
- ・公園マップを作った方がよい。
- ・砂場の近くに水道があると良いし、近くになくても水場があれば汲んでくる。また、砂の入替えはどうなっているのか。
- ・管理の仕方が悪いから使わなくなった。
- ・一つの苦情や一人の苦情で看板が立ってしまうなど、クレームに合わせて対策していくためにどんどん窮屈になっているのではないか。
- ・芝生など裸足で歩ける丘のような場所があるといい。ラヂアン花の丘公園は石がたくさん転がっていて危険。裸足になれない。もったいない。

特色ある公園づくり

- ・自由に使える原っぱなどのある公園、遊具のある公園、雑木林などの自然が生かされた公園など3種類ぐらいに分けて特色を出す。足立区のように、にぎわいの公園、安らぎの公園、などタイプ別にあるのも面白い。
- ・こどもには危険察知能力があり、それを養うためにも原っぱや雑木林のような公園も必要。
- ・自分で考えて遊べて自由に使えるスペースが必要。

- ・ボール遊び禁止の看板が多い。“大人や高学年の子がするサッカーやキャッチボール等”と、“幼児と大人でするようなボール蹴り”は違う。看板で一律に禁止することに疑問がある。
- ・公園にあまり遊具を求めておらず、行くとしたら山・川・海であり安全に川や海で遊べると良い。
- ・ある団体が東大跡地でやっているイベントには毎回 300～400 名の参加がある。遊具以外の部分が求められている証拠ではないか。
- ・公園は「子育ては大事」だとする町の姿勢を表すファクターである。
- ・公園で花火はできないのか。

以上